

# 第4回 建築人賞発表

主催：社団法人大阪府建築士会  
後援：社団法人大阪府建築士事務所協会



建築人賞 記念盾 「未来へ！」  
ガラスアーティスト 三浦啓子作



審査委員長 石堂 威

1942年 台北市生まれ  
1964年 早稲田大学第一理工学部建築学科卒業  
新建築社入社  
1980年～ 「新建築」編集長（1991年まで）  
1985年～ 「住宅特集」創刊編集長（1987年まで）  
1992年～ 「GA JAPAN」創刊編集長（1995年まで）  
1996年～ 都市建築編集研究所 設立 代表  
2008年～ 第1回から現在まで建築人賞審査委員長

## 審査総評

建築人賞審査委員長 石堂 威

未曾有の〇二〇から一年以上が過ぎました。地震の解明が進み、近い将来、東海・東南海・南海の連動型地震の可能性が高いと指摘され、それによる長周期地震動への対策も講じる必要があることがわかってきました。地震・津波・原発事故による被災地の復興の問題はまだまだ深刻な状況にありますが、将来に向けての対策も急がれています。建築物の設計、施工、維持管理に関わる建築人はいつその情報収集、技術の習得に励むことが望まれています。

4回目を迎えた建築人賞に審査員として関わってきて少し気付いた事があります。「建築人」は、市販の全国版の雑誌とは違って大阪府地区の会誌として建築作品を募り、その中から賞を定めることをしています。大阪府地区に設計の拠点はあっても、しかし応募作品は近県に散在して近畿一円を圏内に置き、さらにその周囲にも応募の作品を持っていません。その状況は東京でも同じかと思いますが、はっきりと異なる点があります。東京都地区の会誌はそれなりの独自性をもってはいいても全国版の存在にかすんでしまいがちです。「建築人」は、やはり

建築人編集人代表 米井寛

## 「建築人賞」の趣旨と目的

大阪府建築士会の会報誌「建築人」は1964年より毎月刊行され、2012年4月号で574号目の発刊となりました。会員に向けて情報提供を行うとともに作品発表の場を設け、建築にかかる技術及び文化の普及・発展に寄与することを目的としてきました。

「建築人賞」は2009年（平成21年）に創設され、今年で第4回目を迎えました。「建築人」の「Gallery」で掲載された作品を審査対象とし、それらの中から特に社会・芸術・文化・技術面で優れた作品を顕彰することを目的としています。審査については、日本を代表する数々の建築雑誌の編集に携わってきた石堂威氏に第1回目より審査委員長を務めていただいています。審査対象は建築地や建築種別を問わず、大阪府建築士会の会員のみならず、近畿全域で活動する建築士に応募の門戸を広げています。

石堂氏が今年度の審査総評で触れられている通り、「建築人」には大阪さらには近畿地区が担うべき文化の伝統を伝える役割があります。「建築人賞」が建築士の登竜門となり、建築文化の発展に寄与し、大阪・近畿から全国へ発信する役割を担い続けられるよう、「建築人」の編集に関わる私たちはこれからも引き続き努めてまいります。

## 建築人賞

神戸国際中学校・高等学校

河野記念アルモノホール



### 【選評】

コンクリート打放しを基調としたキャンパスの奥に計画された体育館で、外壁3面に打放しを継承しつつ、もう1面は、敷地の北側にある法面を積極的に生かして新たなコンセプトの「自然」を軸に、柱や梁に大断面の木架構を採用して、コンクリート打放しとは異なるテイストの大空間を生み出した。北面を開放的にしたことから体育館内に明るさがもたらされ、この施設の多目的利用を可能にしている。競技には障害となる光が一部もたらされているが、正規の体育館がすでにいるため、ここでは多様な使用方法へと検討が進んだ。法面までを含む内外の一体空間が生み出されたことで、キャンパス内に新たな核——魅力あるスペースが誕生したことになる。

## 建築人賞

苦楽園の家



### 【選評】

コンクリート打放しを基調としたキャンパスの奥に計画された体育館で、外壁3面に打放しを継承しつつ、もう1面は、敷地の北側にある法面を積極的に生かして、新たなコンセプトの「自然」を軸に、柱や梁に大断面の木架構を採用して、コンクリート打放しとは異なるテイストの大空間を生み出した。北面を開放的にしたことから体育館内に明るさがもたらされ、この施設の多目的利用を可能にしている。競技には障害となる光が一部もたらされているが、正規の体育館がすでにいるため、ここでは多様な使用方法へと検討が進んだ。法面までを含む内外の一体空間が生み出されたことで、キャンパス内に新たな核——魅力あるスペースが誕生したことになる。



建築人2011年12月号掲載

建築主／学校法人 睦学園  
設計者／竹中工務店  
施工者／竹中工務店

建築位置／神戸市須磨区高倉台  
竣工年月／2011年5月  
用途／多目的ホール  
構造・規模／RC+W造 地上1階  
敷地面積／47,659.65㎡  
建築面積／838.07㎡  
延床面積／742.95㎡  
写真／母倉知樹



建築人2011年9月号掲載

建築主／松井 龍  
設計者／二宮俊一郎＋諸留智子  
一級建築士事務所エヌアルエム  
施工者／創建

建築位置／兵庫県西宮市苦楽園  
竣工年月／2010年7月  
用途／オフィス併用住宅  
構造・規模／RC造 地上2階  
敷地面積／496.86㎡  
建築面積／174.75㎡  
延床面積／340.47㎡  
写真／富田英次



【選評】  
70名ほどの子供たちが生活する根拠地としての大きな家で、敷地の形状から平面は三角形形状とし、2、3階の道路に面する側2面に2人室、4人室を並べ、その内側に廊下を巡らしている。1階はリビング、ダイニング、厨房、学習室、心理療法室など公的要素で構成し、リビングの2階上部は吹抜け、3階部分はルーフトイレとして屋内外部を生み出している。2階に吹抜け、3階にルーフトイレを取り入れた構成は屋内にアクティビティを誘発する装置となっている。さらに吹抜けのフリースペースに入り込んだ外部テラス、3階ルーフトイレとつながる2階ルーフトイレの存在が刺激的な空間構成を呼んでいる。外部も4人室が一部外部に飛び出して、内外に生活のアクティビティを演出している。



建築人2011年1月号掲載

建築主/社会福祉法人 三ヶ山学園  
設計者/野村充建築設計事務所  
施工者/東亜建設工業

建築位置/大阪府貝塚市東山  
竣工年月/2010年9月  
用途/社会福祉施設 (児童養護施設)  
構造・規模/R C造 一部S造  
敷地面積/1,736.62㎡  
建築面積/1,027.90㎡  
延床面積/2,089.89㎡  
写真/名執一雄

建築人奨励賞

あおい町里山文化交流センター



【選評】  
京都府との県境に近い福井県あおい町の山間に建てられた公共施設。図書館、ホールのほか、公民館、ギャラリーの機能を持つ。地元住民からは、都会ではなく田舎風にと求められたという。多重屋根と、鉄骨造ではあるが木造の雰囲気も多く取り込んで、住民が自ら運営にも参加する積極性に対応し、かつ高める建築へと仕上げた。多重屋根の形成は、図書館とホールを並列させ、ホールの高さに合わせるように図書館上部に空調機械室と電気室兼室外機置場を重ねて、これにエントランスギャラリーの天井も吹抜けで揃え、高窓からの採光で館内の明るさを保証しつつ地域のシンボルをつくり出した。



建築人2011年12月号掲載

建築主/あおい町  
設計者/徳岡設計  
施工者/こんどう・日登建設 共同企業体

建築位置/福井県大飯郡あおい町 名田庄久坂  
竣工年月/2011年3月  
用途/図書館、公民館、劇場  
構造・規模/S造 地上3階  
敷地面積/3,658㎡  
建築面積/2,769㎡  
延床面積/3,478㎡  
写真/松村芳治



【選評】  
歴史の中で形成されてきた境内、本殿・拜殿への参道沿い、しかも神池に接するように限られたスペースの中に新しい祈禱殿を配置するという困難を背負ったプロジェクト。鉄骨造に屋根を架け、外壁は総ガラスで透明性を高めている。神社特有の飾りが内部にめぐらされるので文字通りの透明性が常時保証されるわけではないが、軽快感のある鉄骨柱と共に参道を歩く人びとにとって建物による目障り感は減じられている。逆にガラス越しに見える景色、また反射などに目をやりながら間近に現れる本拜殿の造形を眺めるという楽しみを得たようにも思える。「環境配慮」「景観調和」のテーマを無事やり遂げている。



建築人2011年12月号掲載

建築主/宗教法人 西宮神社  
設計者/大林組 大阪本店 一級建築士事務所  
施工者/大林組

建築位置/兵庫県西宮市社家町  
竣工年月/2010年11月  
用途/神社  
構造・規模/S造  
敷地面積/42,075.00㎡  
建築面積/453.26㎡  
延床面積/389.87㎡  
写真/山崎浩治

建築人奨励賞

路地のある寺内町の家



【選評】  
大阪で唯一の重要伝統的建造物群保存地区に建てられた住宅。外観は町並みに合わせて、しつこい、杉板、虫籠窓を使用し、屋根勾配も周囲に合わせている。内部は昔ながらの通り土間形式を用いて、1階にビオトープのある中庭や茶庭を含め3箇所、2階にデッキテラス、屋上庭園と全部で5箇所の性格の異なる庭を設けて、それぞれ部屋と連絡させ、同時に風と光を呼び込んで居心地のよい住宅をつくりだしている。各部屋はけっして広くないが、中庭という外部空間を上手に使いこなしていくことにより所定の目的が達成されるように思う。新築の場合でもこのように伝統を担って、その香りを生み出すこともできる一例といえようか。



建築人2011年3月号掲載

設計者/NEO GEO  
横関正人+三木万貴子  
施工者/山本建設

建築位置/大阪市富田林市  
竣工年月/2010年6月  
用途/住宅  
構造・規模/W造 2階建  
敷地面積/163.17㎡  
建築面積/89.42㎡  
延床面積/150.70㎡  
写真/絹巻 豊